慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Title 細胞機能の研究における擬人主義の擁護:科学哲学と情報構築を通じて Sub Title A defense of anthropocentrism in studies of cell functions through philosophy of scient informatics Author 田中,泉吏(Tanaka, Senji) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)	ice and
informatics Author 田中,泉吏(Tanaka, Senji) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)	ice and
Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)	
Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)	
Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)	
Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)	
0420 0 01	
Abstract 細胞生物学,発生生物学,神経科学,免疫学,組織学等の生物学の様々な分野におた 現の諸例の収集・分析を通じて、細胞機能の細胞の「性格」、「ムード」、「目的」 な意志決定」といった鍵概念で理解できることを示した.また、そのアプローチが生 解全般に寄与できる発展性や、人工生命研究や宇宙生物学等の他分野への応用可能性 ることも明らかにした. それに加えて本研究では擬人主義を科学哲学および科学史の観点から考察し、還元主 と対比される全体論や目的論の性格を帯びたものであることを指慮した、その通程で おける礙人主義が動物行動の研究において争点となる擬人主義とは違い、生命と心 えるというより大きな哲学的動機を背景に持つことが浮き彫りになった.そして現在 おける憂元義や論が申的動動の研究において争点となる凝人主義とは違い、生命と心 えるというようたきな哲学の動機を背景に持つことが浮き彫りになった.そして現在 おける還元主義や機械論一辺側の研究手法に対して、それでは見逃されてしまう生命 を把捉しうる。、ひいては細胞の統合的理解が可能になる点に、「細胞の意思」アフ 効性を見出した. 上記の研究は媒儿行して、多様な細胞行動になる点に、「細胞の意思」アフ 効性を見出した. 上記の研究の現実しは日本動物学会関東支部第71回大会においてまとめで発表した、発表 細胞行動と人間行動の違いなどについて聴衆と議論を交わし、擬人化手法に備わる弱 性や創造性という特長を確認することができた. これらの研究と述じして、多様な細胞行動にみられる「細胞の意思」をオーソライス 能な項目フレームを寝装した「細胞の意思データペース」の構築に向けた作業も進始 年度は項目フレームを確定し、入力予定のデータを100件程度収集した.さらにその の公開元となるホームページも制作した.すなわち、データペースが完成すれば他行 群とのリンクもすぐに可能な状態となっている. 1 https://www.evellected and analyzed anthropocentric expressions in variou of biology such as cell and developmental biology, imurnology, and hile Furthermore, we crystallized anthropocentric mutdy indicates the appli "cell mind" approach, twards understand cell functions in terms of key concepts like "C "mood," "purpose," and "spontaneous decision making." Our study indicates the appli "cell mind" approach towards understand piological phenomena and relevant disci artificial life studies and astrobiology. In this study, anthropocentrism within the studies related to cell func teleological and holistic viewpoint. Furthermore, it encourages a philosophical motivad integrate life with the mind. Subsequently, the "cell mind" approach helps to explaint to phenomena neglected in the reductionist and mechanical research framework In our poster presentation titled "Cell Mind Database (CMDB), a fixed framework with 100 cell mind data points. Lastly, we developed a CMDB-integ	は、 「 この この この この この この この この この この
Notes	
Genre Research Paper	
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000006	6-20180419

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者 -			職名	切 元 风 未 天 禎 報 日 音 助教				
	氏名	田中泉吏	氏名(英語)	Senji Tanaka	補助額	786 千 편	千円	
	~~H							
細胞機能の研究	8における擬人	∽ 、主義の擁護:科学哲学と情報	究課題(日本語					
		石	开究課題(英訳)				
A defense of an	thropocentrisr	n in studies of cell functions t	hrough philosop	hy of science and informatics	;			
氏	名 Name		研究組織 所属・学科・	晔夕	1			
 田中泉吏(Senj			所属・字科・職名 Affiliation, department, and position 文学部・哲学専攻・助教					
金子洋之(Hiro			文学部·生物学教室·教授					
<u>皇子, 一之</u> (Ritsu h 倉石立(Ritsu h								
<u>金子善彦</u> (Yosh								
型了 首/2(103) 松本緑(Midori	,							
坪川達也(Tats								
佐藤由紀子(Yu	,	経済学部・GIC センタ		勤)				
		1. 1	研究成果実績の	の概要				
それに加えて、 性格を帯びたも 違い、生命と心 元主義や機械高 が可能になる点 どについて聴衆 どについて聴衆 これらの研究。 意思データベー	本研究では擬 のであることを を一辺のに、「 に、「 に、「 日本 支 た して、 多 で 一 ス の 、 第 世 、 の で あ の に 、 「 日 た の で あ の に の で あ の に の で あ の で あ る こ と 提 。 の で あ の に の で あ の に 、 の で の の に 、 「 一 の に 、 「 に 、 「 に 、 「 日 の に の に 、 「 に 、 「 日 間 他 の に 、 「 に 、 「 日 田 加 物 の に 、 「 に 、 「 日 田 本 の う に 、 「 、 「 日 の に 、 、 「 日 の に 、 、 「 日 の に 、 、 う の う の に 、 、 、 、 う の う の う に 、 、 、 う の う の 、 の 、 の 、 の 、 の の に 、 の う の う の に 、 、 の う の う の ろ ろ の の の の ろ ろ の の の の の う の う	2生物学等の他分野への応用 人主義を科学哲学および科学 5指摘した。その過程で、本研 えるというより大きな哲学的動 次手法に対して、それでは見逃 な思」アプローチの有効性を見よ 初学会関東支部第71回大会に し、擬人化手法に備わる発見 様な細胞行動にみられる「細」 向けた作業も進めてきた。今年 元となるホームページも制作し	空の観点からる 究における擬人 とされてしまう生 出した. こおいてまとめっ 去的有用性や創 胞の意思」をオ・ 度は項目フレー た.すなわち、	考察し, 還元主義や機械論とざ 、主義が動物行動の研究にお っことが浮き彫りになった. そ 命現象の側面を把捉しうる点 て発表した. 発表のなかでは新 」造性という特長を確認するこ。 ーソライズして集積可能な項目 ームを確定し, 入力予定のデー データベースが完成すれば他	いて争点となる して現在の生物 ,ひいては細胞 細胞行動と人間 とができた. 目フレームを実 ータを 100 件程	り擬人主義 切学におけ の統合的 行動の違 装した「細 度収集した	とる理い 胞と	
			成果実績の概要					
developmental I studies into a " "purpose," and biological pheno In this study, anthropocentris philosophical m phenomena neg In our poster presented in the human behavior We also starte	biology, neurol cell mind" app "spontaneous mena and rele anthropocent m within the s otivation to in lected in the r presentation e 71st meeting s with the part ed to construct	collected and analyzed anthro piology, immunology, and histo proach, wherein we could under decision making." Our study is vant disciplines like artificial li- rism was examined from a p studies related to cell function ntegrate life with the mind. S eductionist and mechanical re- titled "Cell mind: Introducing g of the Kanto branch of the Z ticipants and concluded that a st the Cell Mind Database (CM ated website to enable the link	ology. Furtherm erstand cell fun indicates the ap fe studies and a perspective of l ns has a teleol Subsequently, t search framewor anthropocentrism MDB), a fixed fr	ore, we crystallized anthropo ctions in terms of key concep plicability of a "cell mind" ap astrobiology. history and philosophy of sc ogical and holistic viewpoint. the "cell mind" approach ho ork rism into biology for understa ty of Japan, we discussed the n is useful in biological studies amework with more than 100	ocentrism within ots like "charac oroach towards ience. Our stu Furthermore, it elps to explain anding biologica e differences be s.	n cell fun cter,""mc understar dy shows c encourag the biolo al phenom tween cel	ction bod," nding that ges a bgical ena" I and	
	empe mogn		研究課題に関す					
発表者 (著者・	- 氏名 講演者)	 発表課題名 (著書名・演題) 			学術誌 (著書発行年)	発行年月 月・講演年	F月)	
金子洋之・佐藤 泉吏		細胞の意思:生命現象を理 ための擬人化手法の導入			2019年3月9	日		
金子洋之·佐藤	由紀子	細胞機能理解のための擬。 効用(データベース作成に向		学研究教育センター活動報	出版準備中			
		オーマットの検討)						